観光・創造都市・国際戦略特別委員会資料
平成 25 年 2 月 13 日 （ 水 ）

平成２４年度観光・創造都市・国際戦略特別委員会報告書　構成案

１　付議事件

ＭＩＣＥの推進、国際コンテナ戦略港湾の推進、国際戦略総合特区の推進、文化・芸術等の大規模集客イベントの開催に関すること。

２　調査・研究内容

観光・創造都市戦略における国際都市横浜の魅力づくりについて

３　本件について調査・研究を行う理由等

調査・研究内容の決定を行った委員会（平成２４年９月２１日）の資料から抜粋

本市では、観光・ＭＩＣＥ・創造都市の推進について、横浜市中期４か年計画の中で新たな成長分野としてとらえ、「観光・創造都市戦略」を横浜版成長戦略の一つに据えて、重点的な取り組みを行っている。

議会においても、特別委員会で本件に関わる提言がなされてきたところであるが、国内外の都市間競争が激化する中、本市が「観光・創造都市戦略」を着実に進め、国際都市横浜として都市の魅力を高めていくためには、より具体的で、実効性の高い施策を推進していく必要があると考える。

今年度の本委員会では、過去の特別委員会における提言も踏まえながら、現地視察や専門家からの意見聴取などを行い、「観光・ＭＩＣＥ・創造都市よこはま」を早期に確立させるために必要な、横浜の魅力づくりについて、具体的な施策等の調査・研究を行う。

（今年度の最終目標）

調査・研究の結果については、本委員会の提言として議長あてに報告を行う。

４　委員会活動の経緯

活動実績を記載

５　付議事件に関連する本市の取り組み等について

政策局、市民局及び文化観光局が行った事業概要説明を記載

６　参考人からの意見聴取

参考人の説明概要及び委員意見等を記載

７　視察

視察の実績を記載

８　委員意見概要

これまでの委員会における委員意見等を記載

９　観光・創造都市戦略における国際都市横浜の魅力づくりについての提言

委員意見等から導き出される本委員会の提言を記載

観光・創造都市戦略における国際都市横浜の魅力づくり
提言イメージ

1　総論（イントロダクション）

※国の動向、横浜市の現況などの背景説明

＜観光立国推進への機運の高まり＞

○観光庁の発足、観光立国推進基本法の制定

＜求められる都市の自立＞

○地方分権、地域主権改革の推進

○新たな大都市制度（特別自治市）の創設に向けた動き

＜国際都市間競争の生き残り戦略＞

○羽田空港の国際化

○「環境未来都市」「国際戦略総合特区」「特定都市再生緊急整備地域」の指定

○国際コンテナ戦略港湾の活用等

今だからこそ横浜に戦略が必要

横浜市中期４か年計画では、

【観光・創造都市戦略】～観光・ＭＩＣＥ・創造都市よこはまの確立～
「アジアからの誘客」「ＭＩＣＥの誘致」「文化芸術創造都市」「総合調整とシティプロモーション」

を掲げ、施策を展開している。

一方で、観光・創造都市戦略を進めるにあたって、さまざまな課題がある。　※委員意見を抽出

■一過性のイベントだけで、人が継続的に集まらない。
■機能的な充実だけではいけない。何が横浜の魅力なのか。
■海外では全然横浜が知られていない。国際会議のアピール力も足りない。
■横浜のまちづくりをどのようにしていくかということがよく見えない。
■創造都市の姿が共有化されていないため、進む道が見えてこない。
■骨太のここに向かっていくというものが足りない。
■市民がアイデアを持ち込んでも、逆に行政が足を引っ張りやらせない理由（制約）を作ってしまい、アイデアのある人たちがスポイルされてしまうこともあるのではないか。
■横浜には観光資源が数としては相当多いと思うが、埋もれてしまい伝わってこない。
■外国の観光客は異質なものを求めて来るが、横浜には日常があるだけで、観光客を誘致する基本的なものが欠けている。

そこで、本特別委員会は、ＭＩＣＥの推進、文化・芸術等の大規模集客イベントがどうあるべきかを見える化していくという役割として、１年間議論を行ってきた。

2　具体的な施策に関する委員意見

①国際都市横浜をイメージできる大規模な集客ツール

統合リゾート（ＩＲ）（カジノ、ショッピング施設等）

■カジノは法制化待ちだが、勉強していくことは大事。
■カジノはやるべきでないと思っている。
■カジノは横浜に滞在する理由としてとても強力だと思う。
■カジノは反対。どうしてもと言うなら、港の大きな一角に治外法権のようにしてマカオのように１つのエリアとして持たなければいけない。
■カジノは外国人専用ということを踏まえてまず勉強しておかないといけない。
■飛鳥Ⅱなどの客船にはカジノ施設を備えているものがあるので、船内という場所も想定できる。
■南部市場の５万坪の敷地や金沢の空き工業団地に、大規模なショッピング構想を経済局と連携してやったらどうか。金沢八景には横浜市立大学と関東学院大学があり若者を巻き込む具体的な施策が可能であるし、金沢区には野島、伊藤博文別邸、金沢文庫等の観光資源が多数ある。
■ショッピング構想で南部市場を再活性化し、羽田からのアクセスの良さを生かし、横浜でお金を落としてもらう流れをつくっていく。

公道レースの開催（エコカーレース等）

■エコカーは大学でも取り組んでいる。多額の市税を投入して日産本社を誘致したのだから、若者を中心とした車関係の世界的なイベント等を横浜で開催したい。
■エコカー、公道レースは今日本のどこでもやっていない。横浜と言えばこれだというものが１つくらいあると良い。
■今学生がエコカーを作りレースで優勝している。学生の努力した結果をレースでみなとみらいでやれば、それが放映されると、グランプリレースの場合には 168 カ国が見る。横浜をもっと知ってもらうためには、そういったレースが必要。
■（公道レースに対して）横浜というのはもっと落ち着いて、誰もが訪れたいまち、そこに来るとほっとするまちであっていいと思う。
■公道レースもそうだが、目玉となるイベントをひとつ今の時代から横浜につくっていくのが、周りの波及効果も含めて大きいのではないか。

国際的文化・芸術・スポーツイベントの開催

■大規模スポーツイベントとして、横浜に市民参加型フルマラソン大会が開催されるとよい。
■Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2012 は、内容が分かり難い部分があった。大規模なイベントをやる際は、市民にすとんと落ちやすい、体系化したプロモーションをすべき。
■一過性のイベントを開催するのではなく、町中でおもちゃ箱をひっくり返したみたいに、日常的に音楽や大道芸人などのイベントを実施する。
■ゆずのようなストリートミュージシャンや、日本で最初のものなどに行政が目を向けて、継続・発展させていく。

②訪れたいまち横浜の魅力の創造

質の高い都市景観の保全・形成

■横浜の生活の中で生み出された既存の建造物など、暮らしの中で必然的に生まれた横浜の文化を、魅力として再認識する必要がある。

■港の周辺はれんがづくりや洋館づくりでまとめたり、馬車道から伊勢佐木町までは石畳にして、明治・大正期のレトロな電車・馬を走らせるなど、観光客が写真を撮りに来るような、徹底した景観を創りだす。昔のまちなら昔のまちを再現するとか、観光客が求める非日常を創りだす。

既存施設の魅力向上（歴史的建造物、文化施設、三渓園、八景島等）

■イギリスはふだんの歴史のあるまちと言われていて、その建物に住んでいた人物やそこであった出来事がブルー・プラークという統一したプレートで貼ってあり、それを見て歩くのも楽しい。日本の近代の建物を持つ町でそういった事ができるのは横浜だろうと思う。

■金沢文庫などには芸術・美術品がごろごろしているので、そういう有り物を上手に使えればいい。

アフターコンベンションの開拓

■横浜は夜出かけて行っても、生演奏をやっているようなバーも少ない。そういうものの掘り起しをして滞在する人が楽しめるようにすべき。

■観光に行って楽しみなのは食である。観光振興の中に「食」という視点を持つ。

来街者へのホスピタリティ向上（多言語による案内等）

■アジアをターゲットにしていると言うが、案内表示に中国語と韓国語が時々書いてある程度である。観光地の展示物等についても、外国人が分かるような細かい案内を説明すべき。

■言葉が通じなくても笑顔は通じる。笑顔で歓迎されることはとても印象に残る大きなこと。

総合的シティプロモーションの実施（メディア都市ブランド等の活用）

■数で競争するのではなく、横浜は横浜の持っている魅力で都市の価値を高めていくべき。

■オールド横浜だけでなく、現代都市性・未来都市性など、温故知新というコンセプトも必要。

観光産業の担い手づくり

■横浜に暮らしている人たちが「横浜という創造都市に暮らしている」という自覚が持てなければ、どんなに魅力的なことをやっても、その一つ一つが成功したとしても、本来の意味での創造都市という文化にはなっていかない。理想的なのは、長い時間をかけてでも真の意味での創造都市となり、自分達はお金を生み出す観光産業に関わるんだ、という意識を持つ住民が出てくれば、行政はコンサルという仕掛けさえ提示するだけで、後は住民自身が担い手となり、魅力あるイベント等も自らの手でやっていくという道筋が描ける。

■南部市場では、市場で働く人のアイデアを具体化するためにコンサル費用を助成するという動きがあるが、新しいまちづくりをしていくに当たっても、行政が主導する形で、例えばコンサルが開発業者を引っ張ってくるとか、ノウハウを持っている人たちとコラボレーションしていくといった事を、市民と一体となって相談しながらやっていく姿勢が必要。

③国際都市横浜の持つ観光資源の広域的な広がり

横浜を滞在拠点とする広域周遊ツアー（歴史・文化・世界遺産・温泉・ショッピング等）

■横浜に宿泊してもらい、横浜を中心に、神奈川県の括り（箱根の温泉、三崎でマグロを食べる等）も含めた観光商品の開発をするべき。

■横浜には長期滞在型の宿が少なく、観光客にまち全体を知ってもらうまでに至らないことが問題。住民に創造都市を理解してもらい、例えば、空き店舗などを長期滞在型のベッド・アンド・ブレックファーストとして開放する。そういったものが栄区辺りにいくつかできると、栄区を拠点にみなとみらいや鎌倉に遊びに行く人もいて、さらに町を気に入ったらここで暮らそうか、というような魅力が創出できるのではないか。長期滞在型の宿泊施設であれば、海外から来る学生の宿泊や永住を検討している高齢者などがまずは半年住んでみようといったような事も可能となる。

世界遺産登録を契機とした観光振興

■横浜は情報発信力とネットワーク化が弱い。自分達だけで出来ないのであれば、「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録の話は一つの大きな起爆剤なので、チャンスを生かさなければならない。

１８区の持つ資源を生かした魅力づくり

■泉区には 10 年近く続く「吊るし雛の会」などの地域活動があり、地元の人達は、それを都心部で多くの人に見てもらいたいという思いもある。市の郊外部と都心部をつないで、日本の伝統的なものを展示するというコンセプトで、地域の資源を集めてくるということも考えられる。

■横浜に多く残されている田園緑地そのものを公園化し、芸術村や寺家のようなふるさと村を作る。ある程度の山脈があるところは、馬場の道を作り、馬で走れるようにする。中心部にはレトロな昔の街並みなどの賑わいがあり、郊外では田園で遊べるといった、横浜市は多様性を持つ事ができる。

■今までのまちづくりそのものを見直して、市民の生活、地域での生活というものに立ち返って、地に足のついたものを発展させる事、そういったリアリティに人が集まる。それぞれの地域に目を向ける。

■生麦周辺には旧東海道の漁港の町があるが、横浜駅にも近いので、そこに新鮮な魚介類や丼物、寿司などが気軽に食べられる商店を集め、本場市場とも連動し、魚市場のようなものをやる。保土ケ谷宿であれば、昔ながらの郷土の物を売る店を集めるなど、じっくりと腰を据えたまちづくりをしていく事を行政が働きかけをする。

■区単位での観光振興を考えて、観光資源がある区には、予算的な部分も含め大きくスポットライトを浴びさせる。区がもう少し観光分野に取り組んで、観光として本当におもしろいものを発信していく。

ニューツーリズム（医療・フィルム・スポーツ等）

■医療ツーリズムについては、混合診療の問題など、医師会は非常に気にかけている。

■医療ツーリズムは、町医者が外国人を診るという話ではなく、最先端技術をもって行うものである。重粒子線治療等の開発について横浜が先進的であるという中での提案。

⇩

観光・創造都市戦略を具体的な施策によって着実に進めることにより、「国際都市横浜」としての魅力向上、都市ブランドの確立、横浜経済の活性化、国際性豊かなまちづくりの実現につながると考える。